



在
 換
 心
 泥
 等
 二



遠近
 1924
 2



門へ 18
部 1924
巻 2

福興
子子

6

野

書

杜撰 泥帚 卷之三

男非界坊 天竺 渡人と謀

老妻の是界坊ハ病業平をさうさびて。

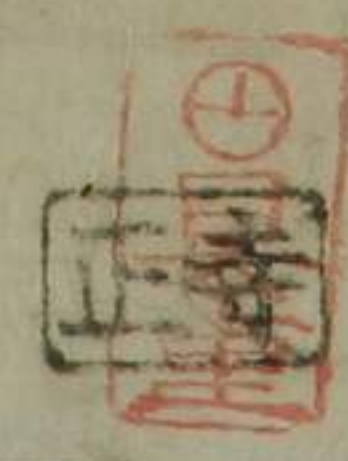
杜撰坊とまじりたけらび汝の遠業かん

どろふたんとらも約束のおろく亡父の園

とゆづるべーその片膝とたのむちかんど

ふきぐ。今日よめやかんをかりません。

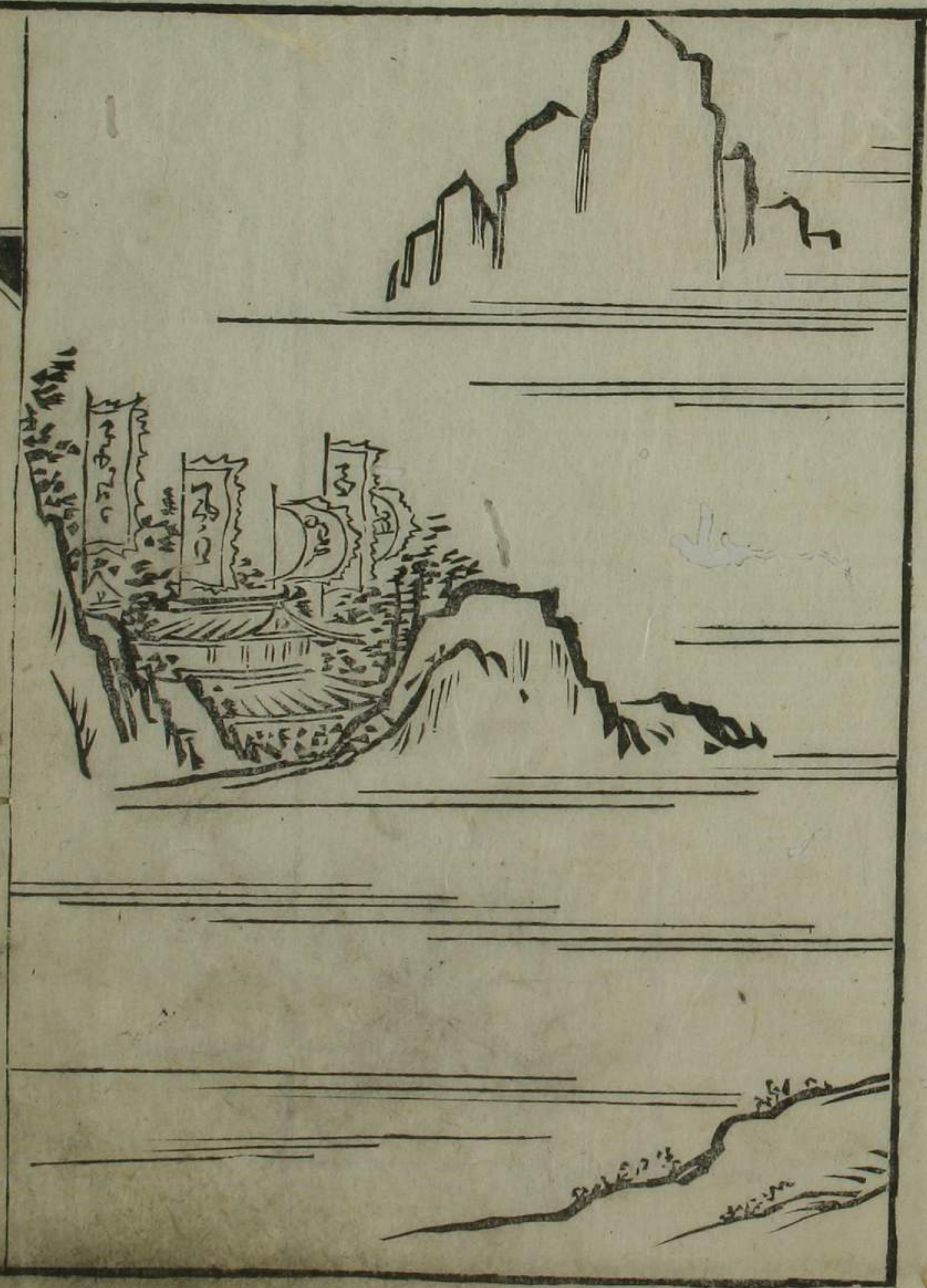
柳古止約ハ三國は能くた。大磨屋王で



和

のちねえ組せぬよう。平野の岩は
郎坊い。ふぎて山は神子とあゝた
外はとて執事か。かぐも山をわくる倦
何れをするより。け二人のあはれありね
ううやあふすべの彦山のふせん訪は華月を
たぐうういこの節の素識ごう。悴ハむそふ
筑紫まけそけ事とかけま。杜橋房の目
あんあいのことだらう。着目。伯耆の大

山ふふ向て加勢をたのむづい。杜橋
坊はとありいふをやまびこ。異域の天狗が
江戸池いあんまり何やら。け疑止あ
つういさき。け日本の新天狗は大方
被戒むぎんの出もゆきで。飲冷をうり
まらふとよき。まらふとら奴原で。菓
島東とわぐうとふけ山人家をそく
つる。今も治ま穀よま。けね安く依て





以合ふあひした縁えんもあまじきも。こころこころ當計あてのあひ
 よも。源みないあ祖せんもねも。新あらたも詩文しぶん章あき小
 いりて。口吻くちふんの耳みみ字あざ同どうであらうらうら
 入いれた。先刻せんこくもわね詩賦しふとらんまもねん
 祖そとのまももでさ。さる家いへ氏うぢの何なにをこころ
 ねし。そのまもやんごころり入いれが。格かくらう
 の杜つづ孫そんをまも。ねんく。あつてあつらへ入
 とけり。あつらふ佐すけと杜つづ氏うぢも。襄陽じやうやうも任にん

志して進士しんしよわげらうらうら。子こ美みが玄孫げんそんのる
 孫そんでござうと唐たう代たいも考かんへん。ゆめうらうらよま
 らう。ねんごも四五しご某まの流りゅうより詩文しぶん章あきと
 まのびまも。唐たう詩し撰せんの序ぎよよ。子こ美み篇へん什じ
 雜ざ衆しゆ憤ふん然ぜん自じ放はう矣やと。滄そう溟めいがねんまも。こ
 ろ。詩し作さくハそんと廢ふしまも。ぬらうねん
 琴こととひもよも。枕まくら天てんく灼やくく其その花はなと。女むすめを
 目めあふらうらひもを。かた母ははもさうらふ

そ。長安^{長安}の^のが^のり^りる



泥^泥糸^糸を^を二^二終^終

